

未来の学びコンソーシアム 第2回運営協議会 議事概要

日時：平成30年3月8日（木）10:00～11:00

場所：金融庁13階 1320会議室

出席者：

（委員）金丸座長、清水副座長、赤堀委員、石戸委員、大久保委員、駒崎委員、島田委員、戸ヶ崎委員、船津委員、三宅委員、毛利委員、森委員

（文部科学省）白間大臣官房審議官（初等中等教育局担当）、塩見生涯学習総括官、梅村情報教育課長、安彦情報教育課情報教育振興室長、中川プログラミング教育戦略マネージャー、壹貫田情報教育課課長補佐

（総務省）犬童情報流通振興課長、田村情報流通振興課情報活用支援室長

（経済産業省）伊藤経済産業政策局参事官 兼 産業人材政策室長

○座長より冒頭挨拶

○事務局より報告

1. 「未来の学びコンソーシアム」推進体制の強化（資料1参照）
2. 「未来の学びコンソーシアム」の活動内容（資料2参照）
3. プログラミングに関する学習活動の分類（資料3参照）
4. 「未来の学びポータルサイト（仮称）」について（資料4参照）

○意見交換

- 資料3にあるような学習活動の分類は大変重要である。一方で、学校現場での混乱を少なくするためにも、学習活動の分類で示されている内容については、もう少し具体的に示すことも検討した方がよい。
- 教員研修を行う際は、プログラミング教育に対する不安感をなくすために、教員が実際に体験できるような取組が行われるとよい。また、大学と連携しながら、ICTやプログラミング教育に詳しい人材をメンターとして活用することも検討すべき。
- 教育課程内で行われるプログラミング教育は、教科の目標達成を担保するものであることを明確にすると同時に、教科教育の質が下がらないように留意すべき。

- 今般の改訂のように教科とプログラミング教育をクロスさせるやり方は、世界でも例がなく、難しくはあるが、新体制の下で充実したプログラミング教育の普及促進に努めてほしい。またその際には、山間部や離島といったところも視野に入れて取り組むことが必要。
- 指導要領に例示される単元は、学校現場で真っ先に取り組まれることになると思うが、多くの取組が学校現場でなされ、それぞれ競い合うような状況は、歓迎されるべきである。
- 指導要領で例示されている以外の単元や他教科におけるプログラミング教育についても充実させていく必要がある。2019年までを一つのめどとして、推進チームとしても活動を行ってほしい。
- 事例の情報提供の際には、用いる教材、必要なIT環境、コストのほか、教科の性質や授業態様などを踏まえつつ、具体的に、かつ、学校現場にとって使いやすいものとなるよう、段階的に提供してほしい。
- 今般の新体制の発足に伴い、運営協議会の役割を再認識し、事務局の支援要望なども踏まえて活動していきたい。
- 今後ポータルサイトの機能を拡充するにあたっては、民間事業者の意見も取り入れて頂ければと考える。

(以上)